



ハーゲン・クアルテット (2023.11.1) © 大窪道治

TOPPANホール25周年 室内楽フェスティバル (全5公演)

フォーレ四重奏団 / アネッテ・ダッシュュ(ソプラノ) / 日下紗矢子(ヴァイオリン) /
ニルス・メンケマイヤー(ヴィオラ) / 笹沼 樹(チェロ) / 石川 滋(コントラバス)

〈ハーゲン プロジェクト フィナーレ〉

ハーゲン・クアルテット

世界に冠たるクアルテット、最後の旅路へ 鈴木淳史

イェルク・ヴィトマン(クラリネット) mit
青木尚佳(ヴァイオリン) & 笹沼 樹(チェロ) & 永野英樹(ピアノ)
パツキャマラドな男が帰ってくる 沼野雄司

[Schedule 2025.10 ~ 2026.3]

[Information]

ランチタイムコンサート Vol.136 石田成香(ピアノ)

園田高弘 Memorial Series ファイナルコンサート / 第94回 日本音楽コンクール 予選

TOPPANホール25周年 室内楽フェスティバル 全5公演



Fauré Quartet



Annette Dasch



Sayako Kusaka



Nils Mönkemeyer



Tatsuki Sasanuma



Shigeru Ishikawa

Artist Interview フォーレ四重奏団

— 結成30周年おめでとうございます。メンバー交替なく30年というのは本当に凄いことですね。結成のきっかけや継続の秘訣、各メンバーの個性と特徴についてお聞かせください。

サーシャとティルクは、カールスルーエ音楽大学で出会ってすぐに、一緒に室内楽をやりたいという強い思いで意気投合しました。でも、サーシャは弦楽四重奏を、ティルクはピアノ三重奏を志向していたので、二人の間をとってピアノ四重奏になりました。同じ頃、エリカもカールスルーエで学び始め、こうして4人が出会い、アンサンブルを結成しました。

これほど長く活動を共にしてこられたのは、夫婦に「なぜ一緒にいるのか」と改めて尋ねる必要がないのと同じで、音楽を愛し、クアルテットを奏でることが、私たちにとってごく自然なことだったからです。むしろ、なぜ多くのアンサンブルが容易に解散してしまうのか、逆に聞きたいくらいです。

私たち一人ひとりの個性を言葉で表現するのはとても難しいですが、みんな異なる素質を持ちつつ、共通する点もたくさんあります。それぞれが音楽と結びついている瞬間に見出すものは——エリカは、訪れるのを待ち焦がれ決して手放したくない「音楽の美の瞬間」に心を寄せています。サーシャは、音楽の複雑な構造とそこに宿る作曲家たちの「創造の天才性」に深い敬意を抱いています。コンスタンティンは、音楽と人との「対話」、そして楽譜の行間や人の心に向けられる「探究心」に魅力を感じています。ティルクは、二度と同じものは生まれない「演奏会の唯一性」と、そこに宿る「音楽のメッセージ性」に強く心を動かされます。

25周年の幕開けを飾る、5日間のフェスティバル。

中心アーティストであるフォーレQに、彼らやホール、今回へ向ける想いを語っていただきました。

もともと、4人の“キャラクター”を取り換えたとしても、またそれぞれのものになることでしょう！

— 主催公演への出演は今回で5回目となり、みなさんとの関係も深いものとなってきました。改めてTOPPANホールの印象、ここで演奏する面白さなどお聞かせください。

TOPPANホールが、世界でも屈指のコンサートホールのひとつであることは疑いようがありません。ホール運営に注がれている情熱と深い愛情、出演アーティストやプログラムの選定に込められた細やかな配慮、そして西巻ディレクターがプログラムやレパートリーに対して抱いておられる深い造詣と明確なビジョンに、心から敬服しています。TOPPANホールは、すべての音楽家にとって信頼できる友のような存在であり、再会のたびに喜びと期待で心が満たされます。さらに日本はこのホールでもお客さまが素晴らしい——深い集中力と心の開かれた姿勢、そして私たち演奏家への敬意を感じます。そのなかで、TOPPANホール公演は、常に私たちの旅のハイライトになっています。

印象深いエピソードのひとつに、作曲家の細川俊夫氏との出会いがあります。TOPPANホールで初めてお会いした後、私たちのためにピアノ四重奏曲を作曲してくださいました。この「レテ（忘却）の水」は、彼が津波の被害が特に大きかった地域から移動してこられたばかりで、その衝撃がまだ色濃く心に残っていたことが作品にも反映されています。

そして2021年12月、パンデミックのさなか、ほぼ最後のヨー

ロッパからの乗客として私たちが日本に到着した際のTOPPANホールでのコンサートは、特に感慨深いものでした。「ブラボー」の掛け声の代わりにサインが掲げられた光景は、不思議でありながらもとても心に響きました。この素晴らしい人々との再会は、私たちにとって何ものにも代えがたいものです。たとえ遠く離れていても、ここは私たちの家なのです。

— 今回は、多彩なゲストと多様なプログラムで出演していただきます。楽しみにしていることはありますか？

ホールから提案されたアイデアに大いに喜び、演奏することを心から楽しみにしています。プログラムは多彩で、5公演ともハイライトとなるべき内容が盛り込まれています。最終日には、ドイツ・リュウゲンで開催する私たちの音楽祭にお招きして以来、定期的に共演を重ねている、ヨーロッパで非常に有名なソプラノ歌手のアネットとともに、オペレッタの世界に浸る特別な一夜をお届けします。彼女は、私たちに大きな刺激を与えてくれる存在であり、人としても心から信頼できる友人です。ぜひ楽しみに待っていてください。

* * *

最後に、私たちが愛してやまないTOPPANホールの記念すべき節目にお祝いを申し上げます。ありがとう、そしてこれからの25年に乾杯を——私たちフォーレ四重奏団の55周年、ホールの50周年を共にまた祝えるその日を、心から楽しみにしています。



Jörg Widmann



Naoka Aoki



Tatsuki Sasanuma



Hideki Nagano

パツキヤマラドな男が帰ってくる

オー、パツキヤマラド、パツキヤマラド……

子どもの頃に歌った「クラリネットをこわしちゃった」の最後に置かれている不思議な呪文。実はこの曲はもともとフランスの俗謡であり、呪文は仏語では「Au pas, camarades, Au pas, camarades」となる。日本語にするならば「歩こう、仲間たちよ！ 前進だ！」といったほどの意味だ。

イェルク・ヴィトマンのクラリネットは、まさに「パツキヤマラド」な響きがある。

こじつけで言っているのではない。彼のふくよかで、そしてとてもポジティブな音色のクラリネットは「超一流の奏者による卓越した演奏」という枠組み——それだけでも稀有なことだが——から微妙にはみ出して、われわれをどこかに連れ出そうとする。ヴィトマンの演奏を聴くと妙に楽しい気分になってくるのは、この誘いのせいだと、とりあえずは断言したい。

以前、ヴィトマンの作品と演奏が持つ「明るさ」について、この紙面（*1）で述べたことがある。現代音楽にありがちなジメっとした暗さとは無縁な、実にすがすがしい音楽だ、ということを主張したかったのだが、その後何度も彼の音楽を生で聴き、YouTubeで観て、さらには大学の授業でも紹介するうちに、考えが微妙に変化してきた。いや、明るいことには変わらないのだが、その明るさの核には、聴き手をどこかに連れ出そうと目論む、ある種の運動性

が潜んでいることに気づいたのだ。

そのパツキヤマラドな男が、またTOPPANホールに帰ってくる。あの伝説的な「独奏リサイタル（*2）」（色々なところで書いたが、これは本当に壮絶だった。2時間たったひとりで吹きまくった！）をはじめとして、前回の演奏会（*3）は彼の自作がプログラムの中心だったけれども、今回はむしろクラリネット奏者としてのヴィトマンに、そしてその「仲間たち」との交感に焦点が当てられている。彼自身の作品は冒頭の1曲のみ。ただし、この《ミュージズの涙》は、まだヴィトマンが10代の終わりに書いた最初期の作品であり、ゆえにのちの楽曲のような、アクロバティックな立ち回りや、「特殊な特殊奏法」の類はほぼ出てこない。当日の他の曲のように古典的な音楽なのだ（もともと、後半に進むにつれて遊び心が顔を出すけれども…）。52歳になったヴィトマンは、若き日の作品にどう向き合うのだろう。

この後に置かれているのが、クラリネットを含む室内楽の中でも、とびきり重要といってよいベルク作品とメシアン作品。

ベルクの《4つの小品》は、彼としては珍しいミニアチュール的な音楽だが、面白いのは、先のヴィトマン作品にも似て、どこか東洋風のたたずまいを垣間見せること。ここでのクラリネットは、常にピアノを先導しながら、何やら日本の「書」をおもわせる自在な筆致で空間をたゆたう。書家ヴィトマン。

〈2025/26シーズンオープニング 特別企画〉
TOPPANホール25周年 室内楽フェスティバル
フォーレ四重奏団とともに

フォーレ四重奏団[エリカ・ゲルトゼッツァー(ヴァイオリン)/サーシャ・フレンプリング(ヴァイオリン)/コンスタンティン・ハイドリッヒ(チェロ)/ディルク・モメルツ(ピアノ)]
アネッテ・ダッシュ(ソプラノ)/日下紗矢子(ヴァイオリン)/ニルス・メンケマイヤー(ヴァイオリン)/笹沼 樹(チェロ)/石川 滋(コントラバス)

I 2025年10月2日(木) 19:00 完売

モーツァルト:ピアノ四重奏曲第2番 変ホ長調 K493
[フォーレQ]
モーツァルト:弦楽五重奏曲 ト短調 K516
[日下, ゲルトゼッツァー, メンケマイヤー, フレンプリング, ハイドリッヒ]
シューベルト:ピアノ五重奏曲 イ長調 D667《鱒》
[フォーレQ, 石川]

II 2025年10月4日(土) 18:00 完売

メンデルスゾーン:ピアノ四重奏曲第2番 へ短調 Op.2
[フォーレQ]
ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第2番 変ホ長調 Op.120-2
[メンケマイヤー, モメルツ]
シューマン:ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44
[フォーレQ, 日下]

III 2025年10月5日(日) 18:00

アネッテ・ダッシュ with フォーレ四重奏団
ブラームス:ピアノ四重奏曲第3番 へ短調 Op.60 第1楽章
マーラー:歌曲集《若き日の歌》より〈私は緑の森を楽しく歩いた〉
マーラー:歌曲集《子どもの魔法の角笛》より〈トランペットが美しく鳴りびびくところ〉
ブラームス:ピアノ四重奏曲第3番 へ短調 Op.60 第2楽章
ブラームス:ピアノ四重奏曲第3番 へ短調 Op.60 第3楽章
マーラー:歌曲集《若き日の歌》より〈思い出〉
マーラー:歌曲集《子どもの魔法の角笛》より〈ラインの伝説〉
ワーグナー:《ヴェーゼンドンク歌曲集》
ブラームス:ピアノ四重奏曲第3番 へ短調 Op.60 第4楽章
マーラー:歌曲集《さすらい若人の歌》より〈恋人の婚礼のとき〉
マーラー:歌曲集《若き日の歌》より〈別離と忌避〉

IV 2025年10月7日(火) 19:00

シューベルト:弦楽三重奏曲第1番 変ロ長調 D471
[ゲルトゼッツァー, フレンプリング, ハイドリッヒ]
シューベルト:アルペジオーネ・ソナタ イ短調 D821
[メンケマイヤー, モメルツ]
シェーンベルク:浄められた夜 Op.4
[日下, ゲルトゼッツァー, メンケマイヤー, フレンプリング, ハイドリッヒ, 笹沼]

V 2025年10月8日(水) 19:00

アネッテ・ダッシュ with フォーレ四重奏団
E.キュンネッケ:Glücklich am Morgen(オペレッタ《リーセロット》より)
P.H.エルレバツハ:Fortuna, du scherzest mit mir/
Unser Leben ist mit viel Not umgeben
エリオット・スミス:Between the Bars *
R.シュトラウス:《4つの歌》Op.27より
第3曲 Heimliche Aufforderung/第4曲 Morgen
ハーマン・ティーメ:Das Glück kennt nur Minuten
E.カールマン:O, jag' dem Glück nicht nach
(オペレッタ《チャールダーシュの女王》より)
レハール:Liebe, du Himmel auf Erden(オペレッタ《バガニーニ》より)
クルト・ヴァイル:Tango "Youkali"(オペラ《マリー・ギヤラント》より)
ドビュッシー:《ベルガマスク組曲》より〈月の光〉*
エドゥアルド・フベルト:フォーレタンゴ *
コルンゴルト:Glück, das mir verblieb(オペラ《死の都》Op.12より)
レナード・バーンスタイン:Lucky to be me(ミュージカル《On the Town》より)
ヴィンセント・ユーマンズ:Sometimes I'm happy
(ミュージカル《Hit the Deck》より)
フランク・レッサー:Luck be a lady(ミュージカル《Guys and Dolls》より)
*フォーレQ

【I II IV】7,000円/U-25 3,500円 全席指定
【III V】8,000円/U-25 4,000円 全席指定

歌曲2公演セット券(10/5、10/8)
14,000円/TOPPANホールクラブゴールド会員 12,000円

協賛:artience株式会社/タマホリ株式会社/東京書籍株式会社/株式会社トータルメディア開発研究所/TOPPAN株式会社/TOPPANインフォメディア株式会社/TOPPANエッジ株式会社/TOPPANクロレ株式会社/TOPPANコスモ株式会社/TOPPANデジタル株式会社/TOPPAN保険サービス株式会社/TOPPANロジスティクス株式会社/株式会社BookLive/株式会社フレーベル館(五十音順)

沼野雄司

そしてメシアンの《世の終わりのための四重奏曲》。この曲でのクラリネットは終始、他の3つの楽器の間をさまよい、宙に浮かびながら彼らを媒介する天使のような役割を担っている。天使ヴィトマン。

そして今回、ヴィトマンと共に歩む「仲間たち」の顔ぶれが秀逸だ。ヴァイオリンの青木尚佳、チェロの笹沼樹、そしてピアノの永野英樹。プレーメンの音楽隊ではないが、ヴィトマンを先頭にして、この3人が並んで行進しているところを想像してみたい。ワクワクしてくるのではないか。そしてわれわれもまた、ヴィトマンに誘われて、コンサートホールの中へと歩みだそう。オー、パツキャマラド!

(ぬまの・ゆうじ/音楽学)

*1: Vol.122「明るさと毒、スーパー・ヴィトマンとの再会にむけて」
*2: 2018年1月14日 *3: 2023年3月13日

イェルク・ヴィトマン(クラリネット) mit 青木尚佳(ヴァイオリン)&笹沼 樹(チェロ)&永野英樹(ピアノ)

2025年11月15日(土) 13:00

ヴィトマン:ミューズの涙(1993/96)[ヴィトマン, 青木, 永野]
ベルク:4つの小品 Op.5[ヴィトマン, 永野]
ラヴェル:ヴァイオリンとチェロのためのソナタ[青木, 笹沼]
メシアン:世の終わりのための四重奏曲

7,000円/U-25 3,500円 全席指定

特別協賛:株式会社 竹中工務店

HAGEN PROJECT Finale

— Part 1 —



世界に冠たるクアルテット、最後の旅路へ

鈴木淳史

ハーゲン・クアルテットの登場は鮮烈だった。1980年代の弦楽四重奏といえば、アルバン・ベルク四重奏団に代表されるような、完成度が高かつちりとした演奏スタイルが隆盛を極めていた。そこに閃光のごとく現れた、モーツァルトウム音楽院を卒業したメンバーによる、若々しくアグレッシヴな演奏。それより前にアメリカで旗を揚げたクロノス・クアルテットとともに、弦楽四重奏の新しい時代を切り開く存在として知られていった。

1981年に、ハーゲン一家の4人兄弟でスタートした四重奏団だが、初期のうちに第2ヴァイオリン奏者が2度代わったほかは、現在までメンバー変更はない。切れ味が鋭く、そして一体感の強いフレーズング。近年では、それぞれの個性も強く出るようになると同時に声部同士の対話が増え、表現の幅もさらに広がっていく。気心が知れたメンバーゆえ、即興性豊かなアンサンブルも持ち味となった。

時代をリードし続けたこの四重奏団が、2025/26シーズンをもって活動を停止するという。彼らの最後のツアーは今秋から開始されるが、TOPPANホールでは、ホールの25周年を記念したプロジェクトを兼ねて11月に3公演を行う。さらに、来年の7月にも2公演をスケジュールしている。これがクアルテットの45年の歴史を締めくくる、本当の最終公演となる予定だ。

この四重奏団とTOPPANホールの関係は深い。毎年10月にホールの誕生日を祝うバースデーコンサートを行っているTOPPANホール。このコンサートに最多となる6回登場したのはハーゲン・クアルテットだった。このホールの歩みは、この世界的な四重奏団とともにあったといってもいい。

彼らがTOPPANホールを初めて訪れたのは2003年。2005年のベートーヴェンの後期四重奏曲ツィクルス以降(結成25周年企画でもあった)、2006年、2008年、2010年と公演を重ねる。2013年には6夜にわたってベートーヴェン作品の全曲ツィクルス演奏、2015年にはモーツァルトの連続演奏会も行われた。2017年にはシューベルト&ショスタコーヴィチ、2019年はハイドン&バルトークという組み合わせで、それぞれ3公演。2023年のモーツァルトとベートーヴェンを中心に組み立てた連続公演も忘れ難い。

今年11月のプログラムは、ベートーヴェンとシューベルトの後期作品がひとつの柱となる。第1夜(11/11)の冒頭を飾るのは、バッハの《フーガの技法》からの最初の4曲。洗練されつつも表現力を混えたフーガが紡がれよう。バッハの印象は、ショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲第8番へと引き継がれる。切っ先も鋭く、緊密な響きのなかに強靱な意志みなぎる演奏になるはずだ。この

日の最後は、シューベルトの弦楽四重奏曲第15番。ハーゲン・クアルテットのシューベルトは、実直で理知的な口調ながら、とても傷つきやすいナイーブな面までそのまま描き出す。青春そのもの、といっていいいシューベルトだ。

第2夜(11/12)は、ベートーヴェンの最後の四重奏曲、第16番からスタートし、ウェーベルンの2つの作品を差し挟んで、シューベルトの《死と乙女》で終わる。いつ耳にしても新鮮に響く彼らのベートーヴェン。最後のツアーで奏でられるこの第16番は、いったいどのように聴こえるのだろうか。かつてのように弱音を生かしたレントから、終楽章をユーモラスに締めくくってくれるのだろうか。

そして、イェルク・ヴィトマンが加わり、2つのクラリネット五重奏曲を演奏する第3夜(11/13)。ちょうど10年前にこのメンバーで演奏されたモーツァルトのクラリネット五重奏曲を再び聴くことができる喜び。モーツァルトが晩年に達した深い境地が身に染みるような演奏だった。そのとき、ヴィトマンはこのホールでしか出せないような弱音を体験したという。それは、彼自身のクラリネット五重奏曲の作曲にも影響を及ぼす。その楽譜には、「"Toppan"- Staccato」という指示が記されている。可能な限り小さな音によるスタッカートという意味だ。

モーツァルト作品に先立って演奏される、このヴィトマンのクラリネット五重奏曲は、日本初演。「"Toppan"-Staccato」が初めてTOPPANホールに響く。

(すずき・あつみ/音楽評論家)

〈ハーゲン プロジェクト フィナーレ〉 ハーゲン・クアルテット

完売

2025年11月11日(火) 19:00

J.S.バッハ:フーガの技法 BWV1080より コントラプンクトゥス I~IV
ショスタコーヴィチ:弦楽四重奏曲第8番 へ短調 Op.110
シューベルト:弦楽四重奏曲第15番 ト長調 D887

2025年11月12日(水) 19:00

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第16番 へ長調 Op.135
ウェーベルン:弦楽四重奏のための5つの楽章 Op.5
ウェーベルン:6つのバガテル Op.9
シューベルト:弦楽四重奏曲第14番 ニ短調 D810《死と乙女》

2025年11月13日(木) 19:00

イェルク・ヴィトマン(クラリネット)
ヴィトマン:クラリネット五重奏曲(2017)*日本初演
モーツァルト:クラリネット五重奏曲 イ長調 K581

特別協賛:鹿島建設株式会社

日時	公演
10/2 (木) 19:00	
10/4 (土) 18:00	(2025/26シーズンオープニング 特別企画) TOPPANホール25周年 室内楽フェスティバル
10/5 (日) 18:00	フォーレ四重奏団とともに アネット・ダッシュ(ソプラノ)/日下紗矢子(ヴァイオリン)
10/7 (火) 19:00	ニルス・メンケマイヤー(ヴァイオリン)/笹沼 樹(チェロ) 石川 滋(コントラバス)
10/8 (水) 19:00	
11/11 (火) 19:00	(ハーゲン プロジェクト フィナーレ)
11/12 (水) 19:00	ハーゲン・カルテット イェルク・ヴィトマン(クラリネット) *第3夜のみ
11/13 (木) 19:00	[全5公演 Part 1] 特別協賛: 鹿島建設株式会社
11/15 (土) 13:00	イェルク・ヴィトマン(クラリネット) mit 青木尚佳(ヴァイオリン)&笹沼 樹(チェロ)&永野英樹(ピアノ) 特別協賛: 株式会社 竹中工務店
12/4 (木) 19:00	ジャン=クロード・ベヌティエ(ピアノ) 特別協賛: 株式会社 安藤・間
12/10 (水) 19:00	キリル・ゲルシュタイン(ピアノ)×藤田真央(ピアノ) 特別協賛: 高砂熱学工業株式会社
1/7 (水) 19:00	TOPPANホール ニューイヤーコンサート 2026 1909年製ベーゼンドルファーとの邂逅 山根一仁(ヴァイオリン)/藤田真木子(ソプラノ) 川口成彦、兼重稔宏(ピアノ) 特別協賛: 鹿島建設株式会社

日時	公演
2/9 (月) 19:00	ティル・フェルナー(ピアノ) mit Trio Rizzle & 郷古 廉(ヴァイオリン) 毛利文香(ヴァイオリン)/田原綾子(ヴィオラ)/笹沼 樹(チェロ) 特別協賛: 株式会社きんてん
3/4 (水) 19:00	ベルリン古楽アカデミー I—Pure Bach II—Bach & Beyond 平崎真弓(ヴァイオリン、コンサートマスター) クセニア・レフラー(オーボエ)/ラファエル・アルバーマン(チェンバロ) 特別協賛: 株式会社 安藤・間
3/5 (木) 19:00	
3/6 (金) 19:00	ゴートイエ・カプソン(チェロ)&フランク・ブラレイ(ピアノ) ベートーヴェン《チェロ・ソナタ》全曲 特別協賛: 清水建設株式会社
3/20 (金・祝) 18:00	北村 陽(チェロ) 園田奈緒子(ピアノ) 特別協賛: 東急建設株式会社

(ランチタイムコンサート)
TOPPANホールが選んだ若手ホープによるミニ・コンサート [全席指定]

11/19 (水) 12:15	Vol.136 <1909年製ベーゼンドルファーの息吹 I> 石田成香(ピアノ) ウィーン古典派の波動—守破離
12/2 (火) 12:15	特別企画 Vol.137 水野優也(チェロ)
2/13 (金) 12:15	Vol.138 <1909年製ベーゼンドルファーの息吹 II> 佐藤麻理(ピアノ)&瀧村依里(ヴァイオリン)& 田原綾子(ヴィオラ)&築地杏里(チェロ)

※開場は開演の30分前となります。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。なお、全主催公演で託児サービス[要予約・有料]をご利用いただけます。
ご利用の詳細については、各公演チラシをご確認ください。

2025年8月中旬現在

最新情報はオフィシャルWEBサイトでご案内しています ※WEBチケットもご利用いただけます

www.toppanhall.com

INFORMATION

初冬に響く、あたたかな“ウィナー・トーン”



お昼のひとつときに本格的な演奏会をお届けしている(ランチタイムコンサート)。2025/26シーズンは、トマシュ・リツテル公演(6月)で初お披露目した1909年製ベーゼンドルファー Model250を使用するシリーズ内シリーズ(1909年製ベーゼンドルファーの息吹)を、3回にわたってお贈りします。11月はその第1弾。世界的ピアニスト中村絃子から、「クリスタルのように澄み、温かみのある完成度」と称賛された、石田成香(いしだ・せいか)が登場。高校卒業後にウィーンへと渡り研鑽を重ね、2024年ベーゼンドルファー・ピアノコンクールで第2位を受賞した、若き実力者です。ウィーン留学中はベーゼンドルファーを日常的に弾いていたというだけに、Model250の特性を瞬時にとらえ、豊かな音色を響かせてくれることでしょう。作曲家の想いを丁寧に掬い上げ紡ぐことに長けた石田の自然体の音楽に、どうぞご期待ください。

<ランチタイムコンサート Vol.136>
1909年製ベーゼンドルファーの息吹 I
石田成香(ピアノ)
ウィーン古典派の波動—守破離

2025年11月19日(水) 12:15

ベートーヴェン: アンダンテ・ファヴォリ ヘ長調 Wo057
モーツァルト: アダージョ ロ短調 K540
シューベルト/リスト: 歌曲集《白鳥の歌》より《愛の便り》 S560-10
シューベルト: 幻想曲 ハ長調 D760《さすらい人》

1,500円 全席指定
発売日: 9月19日(金)[会員9月12日(金)]

【TOPPANホールクラブ】
無料(ゴールド会員2枚/レギュラー会員1枚)
※電話・窓口にてお申し込みください。

NEWS

<ランチタイムコンサート>有料化のお知らせ

開館当初より社会文化貢献の一環として無料開催してまいりましたが、時代の変化や社会の多様化に伴い、良好な公演環境を維持し、より質の高い音楽体験を今後も継続的にご提供していくために、2025/26シーズンより有料開催とさせていただきます。Vol.136から新しい形での開催となります。これからも、多くのお客さまにクラシック音楽の魅力をご堪能いただける場をめざしてまいります。今後どうぞ注目ください。

	一般	TOPPANホールクラブ	
		ゴールド会員	レギュラー会員
料金	1,500円	2枚無料	1枚無料
お申し込み方法	WEBチケット 電話・窓口	電話・窓口 *追加購入は一般価格/WEBチケット取扱	
チケットの受け渡し	窓口・簡易書留郵便 ファミリーマート セブン-イレブン 電子チケット	窓口・普通郵便 *追加購入した場合は、窓口・簡易書留郵便、 ファミリーマート/セブン-イレブン、電子チケット	

園田高弘 Memorial Series — 恩師への敬意と感謝を胸に、名手が弾き繋ぐ“無言歌”



20世紀の日本のピアノ界を牽引し、世界レベルにまで引き上げた名匠、園田高弘。TOPPANホール草創期には、ホールの提案を受けて2002年から03年にかけてベートーヴェンのツィクルス(リサイタル3夜、室内楽3夜)を展開。今日のホールの活動に繋がる礎を築いてくださいました。一方で、若きピアニストの成長と活躍を願った彼が2001年に立ち上げた「旬のピアニストシリーズ」、さ

らに妻・春子氏がその遺志を継いだ「シリーズ Pianists」は、TOPPANホールで2012年まで開催され、多くの若き才能を紹介する機会となりました。

演奏家として、また教育者としての園田氏の功績を継承しようと、没後10年の2014年から園田夫妻の弟子が集い、命日である10月7日前後に開催してきたのが「園田高弘 Memorial Series」。長く続いたこのシリーズが今年、ついに最終回を迎えます。ファイナルコンサートに出演する12人は、いずれも世界各地で演奏家として教育者として精力的に活動を続けていて、そのうちの半数はTOPPANホール主催公演にも名を連ねたことのある名手たち。演奏曲は、園田氏が自選したアルバム《名曲コレクション》と、一周忌に春子夫人がセレクトした4枚組CD《園田高弘 エッセンシャル》の収録曲の中からそれぞれが選曲。恩師への想いを胸に、園田高弘の音楽芸術への深い造詣を自分流に受け継ごうという想いが感じられるプログラムになりました。

彼の偉業を偲び、自身の“いま”を奏でる12人のピアニストたちの熱い演奏をお楽しみください。

園田高弘 Memorial Series ファイナルコンサート 2025年10月11日(土) 14:00

- 【平井千絵】スカルラッティ: ソナタ ホ長調 K380
- 【杉目奈央子】J.S.バッハ: 半音階的幻想曲とフーガ BWV903
- 【松本和将】J.S.バッハ(ブゾーニ編): シャコンヌ
(無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番
二短調 BWV1004より)
- 【村山卓洋】ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第21番 ハ長調 Op.53
《ワルトシュタイン》
- 【青柳 晋】ショパン: 幻想ポロネーズ 変イ長調 Op.61
- 【三木香代】シューマン: アラバスク ハ長調 Op.18
- 【川井綾子】ドビュッシー: 2つのアラバスク
ドビュッシー: 《前奏曲集》より 月の光がそそぐテラス
- 【高橋 望】ドビュッシー: 《前奏曲集》より
アナカプリの丘/亜麻色の髪の乙女/
さえざられたセレナード
- 【島田彩乃】ドビュッシー: 《前奏曲集》より 水の精/花火
- 【大崎結真】ラヴェル: 水の戯れ
- 【高橋礼恵】ベルク: ピアノ・ソナタ Op.1
- 【園田 将】リスト: 《巡礼の年 第2年イタリア》より
第7曲《ダンテを読んで—ソナタ風幻想曲》

全席自由: 4,000円
主催・お問い合わせ: スピカ 03-3978-6548

チケットのお申し込み: TOPPANホールチケットセンター

表紙: ハーゲン・カルテット

2025/26シーズンをもって、カルテットとしての長い歴史に幕を閉じることとなった、ハーゲンQ。2005年の初登場以来、ホールの大切な節目に登場し、篤い信頼関係を育んできました。私たちと彼らとの深い絆は、これからも色あせることはありません。キャリアを重ねてなお進化を続けてきた彼らの、最後の旅路。どんな景色を聴かせてくれるのか、楽しみにお待ちください。

編集後記

みなさま、残暑お見舞い申し上げます。体感としてはまだまだ夏真っ盛りですが、暦の上ではもう…。年々、残暑とよばれる期間が長くなってまいりましたね。風鈴の音や打ち水で涼を感じられたのは一昔前の話。いまでは「安全に過ごしましょう」が新しい挨拶の言葉になってき

たように感じます。さて、そんな猛暑にも負けない熱い戦い—若い音楽家が未来を眼差して望む、日本音楽コンクールの予選がTOPPANホールで開催中です。出場者一人ひとりが主役となって、一音にかけ熱い想いが放たれる瞬間に、ぜひお立会いください。(雪)